

きもつき 119

KIMOTSUKI FIRE DEPARTMENT

2023. 11 VOL. 105

秋季全国火災予防運動
令和5年 11月9日～11月15日

令和5年の出動状況			
火災出動	救急出動	救助出動	警戒出動
68件	5885件	49件	518件

令和4年の出動状況			
火災出動	救急出動	救助出動	警戒出動
77件	7363件	53件	681件

※R5.1.1～R5.9.30(9か月間)

編集・発行 大隅肝属地区消防組合
TEL 0994-52-0119
当番病院問合せ
TEL 0994-43-0119

HP



Instagram





大規模災害対応訓練

～関東大震災から100年～

過去の震災では、建物の倒壊による被害が甚大であり、倒壊建物に人が取り残され、生存している状況も多く確認されています。こうした被害を防ぐため、大規模災害対応訓練を実施しています。

倒壊建物から要救助者を「助ける」ために壁や床、ドアなどを破壊するわけですが、破壊の訓練機会は多くありません。

関東大震災から100年の節目を迎え、改修工事中の平和市営住宅や建替え後の旧徳田脳神経外科を提供していただき、訓練施設だけでは対応できない本格的な訓練を実施し、破壊手順など効果的・効率的に対応できるかを検証することができました。

全国消防救助技術大会 第2位

令和5年8月25日に北海道札幌市で、開催された第51回全国消防救助技術大会に、鹿児島県代表として南部消防署の松清副士長と佐多分署の園田副士長が出場し、ロープ応用登はんの部において全47チーム中2位（10秒80）の成績を収めました。

この競技は、器材を使わず、15mのロープを2人で協力して登る所要時間を競うものです。

2人の活躍に刺激を受け、職員一同、より一層地域の安全安心の向上に邁進していきます。



松清副士長

園田副士長



火災・救急 過去最多！？

グラフ(1)のとおり、9月末現在の火災、救急、救助の出動件数は、いずれも昨年を上回るペースで発生し、現在のペースで出動が増加すると**過去最多**の件数にのぼる予想です。昨年は、管内住民の**18人に1人**が消防車や救急車を利用しています。

グラフ(2)では、令和4年救急出動の約4割が入院を必要としない軽症者で占めています。軽症者の救急要請した理由として、「病院までの交通手段がなかった」「救急車でいけば早く診てもらえる」など**緊急性がないもの**も見受けられるので、救急車の適正利用をお願いします。

このまま出動要請が増加し、管轄署の全ての車両が出動してしまえば、隣接署から出動することとなり、到着までの時間をさらに要することになります。

自動で通報？？



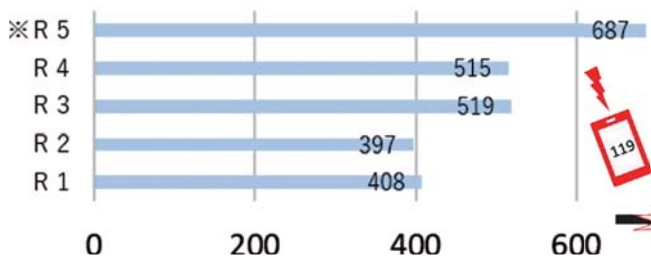
次に、グラフ(3)のとおり、「間違い通報」が今年は増加しています。この原因の1つにスマートフォンなどの自動で119番通報する機能があります。

もし、**誤発信**された場合は、間違いであることをお伝えください。

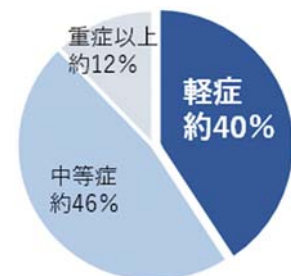
これから迎える冬季は、空気が乾燥し火災が発生しやすいことや、寒暖差による急病人が多くなることから、例年、出動要請が多くなります。

今一度、**火の用心と健康管理**を心掛けてください。

グラフ(3) 間違い通報件数 ※9月末数値



グラフ(2) R4 傷病程度割合



リチウムイオン電池からの火災にはご注意ください！

リチウムイオン電池は、スマートフォンなどのバッテリーに使われており、私たちの生活にはなくてはならないものです。一方、扱い方を間違えると爆発したり、発火し火災になるケースがあり、火災件数は年々増加傾向にあります。



身の回りのリチウムイオン電池は大丈夫ですか？



火災を防ぐためのポイント

- ①直射日光の当たる場所、高い温度になる場所には放置しない
- ②充電するときは、必ず専用の充電器を使用する
- ③電池は強い衝撃を加えないよう丁寧に扱う
- ④電池を捨てるときは、家電量販店やホームセンター等の回収ボックスを利用する



住宅火災から命を守るために

令和4年中の建物火災による死者が全国で1,168人発生し、そのうち住宅火災での死者が1,012人と86.6%を占め、そのほとんどが、逃げおくれによるものです。

また、管内でも今年は住宅火災で4人の死者が発生しています。

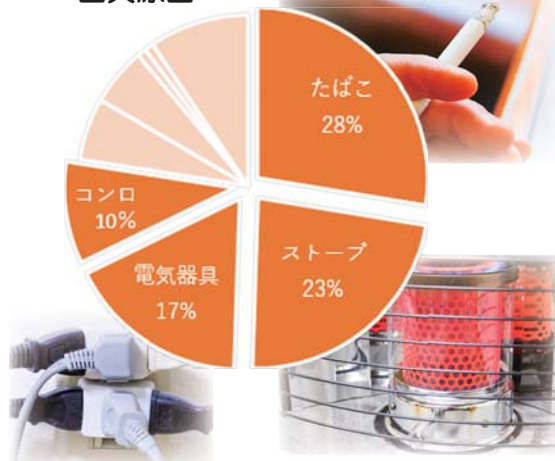
死者が発生した住宅火災における出火原因は、たばこ、ストーブ、電気器具、コンロが上位を占め、着火物は寝具類、衣類、くず類が上位を占めています。（※不明・放火を除く）

このことから、火災で命を落とさないために次のことが重要になります。（令和4年消防白書 参照）

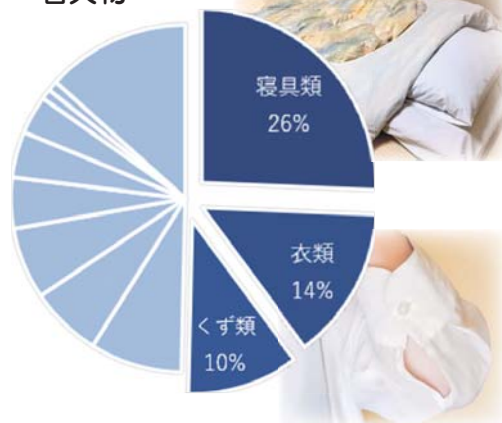
- ・寝たばこをしない
- ・コンロを使うときは火のそばから離れない
- ・部屋の整理整頓をする（寝室、コンセント周辺）
- ・住宅用火災警報器を定期的に点検する



出火原因



着火物



磯釣り時の注意

平成31年から今年の8月31日までに管内で水難事故による死者が7人発生しています。快適な磯釣りは万全な装備から始まることを肝に銘じておきましょう。

最低限必要な装備

- ・ライフジャケット
- ・携帯電話
- ・釣り場に応じたブーツとグローブ

留意事項

- ・無理をしない（天気予報の確認と体調管理）
- ・単独行動をしない
- ・釣行計画を家族に伝える

消防士の仕事を体験

南部消防署は、昨年から開始した「1日消防士」を開催し、地元の女子中学生3人が参加しました。

火災現場で着用する防火服を着ての放水訓練や心肺蘇生法などの救急訓練を現場さながらの体験をしてもらいました。

今回の体験を通して、「将来は消防士になりたい」と感じてくれたら幸いです。



放水訓練の様子



昼食は消防カレー



救急訓練（心肺蘇生法）